

(行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

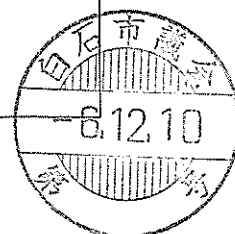
令和6年12月10日

白石市議会議員 松野久郎 殿

議員氏名 角張 大治

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	令和 6 年 1 1 月 1 8 日 (月) ～ 1 1 月 2 0 日 (水)
調査・研修先	全国市町村国際文化研修所 (JIAM)
調査事項 (研修事項)	新人議員のための地方自治の基本 【講義1】地方自治制度の基本 【講義2】元議長が語る「住民から近くて遠い地方議会から近くて近い地方議会」への一考察 【講義3】地方議会と自治体財政 【講義4】条例と政策の審査・立案 【演習1】条例演習 (意見交換・発表・まとめ) 【講義5】これからの地方議員に期待されていること
対応者・講師等	【講義1】同志社大学 教授 野田 遊 氏 【講義2】福津市議会元議長 江上 隆行 氏 【講義3】武庫川女子大学 教授 金崎 健太郎 氏 【講義4・演習1】元衆議院法制局参事 吉田 利宏 氏 【講義5】駒澤大学 名誉教授 大山 礼子 氏
概 要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	【講義1】地方自治制度の基本 ① 目的 ・市議会議員としての職務遂行に必要な基本的知識を習得すること ・施策立案の基盤を築くこと ② 内容・特色 ・地方分権 ・財政 ・行財政改革 ・市町村合併 ・広域連携 ・行政編成 ・自治体議会 ・自治体組織 ・ガバナンス ・政策 ・広報 ③ 主な質疑 ・広域連携について ・ボランティア議員について



④ 考察

講義資料のデータの1つに「市町村の行政サービスに対する削減ニーズ」というものがあり、削減してほしいサービスについては明確な傾向が出ている一方で、広域連携をしてほしいサービスはどのサービスも80%前後で一定となっていました。インフラ関係のサービスについて連携志向が高いというのは理解できますが、地域の特異性を表すような分野においても連携志向は高くなっていました。このデータから私が考える1つの可能性を提示したいと思います。多くの日本人が地域の個性というものは既に求めておらず、個人個人の個性（多様性）に重点がおかれる思考に至っているのではないかと考えます。幼い頃から世界中のありとあらゆる情報を得ることができる世代と、情報を得る手段や得られる情報の内容が限られている世代では当然に価値観が異なってくるでしょう。さらに言えば、若い世代においては世代内ギャップも当然のように起きているでしょう。将来、地域性を活かそうとするような施策が、逆に地域住民の生活を苦しめることになりかねないかと危惧しています。

【講義2】元議長が語る「住民から近くて遠い地方議会から近くて近い地方議会」への一考察

① 目的

- ・他の議会の取り組みを元議員から直接聞くこと
- ・元議員の考え方を聞くこと

② 内容・特色

- ・議員の役割とは ・議会と行政は「車の両輪」であろうか
- ・議会が議決した意思を尊重しよう
- ・自治体財の政を理解できる議員を目指そう など

③ 主な質疑

- ・議会報告会に関して ・合併に関して
- ・付帯決議に関して

④ 考察

元議員・元議長という立場から、自らの経験や識見に基づいた議員としての心構えや職務についての講義であったと感じました。議会の権能として参考人招致や付帯決議ができることは知りませんでしたので勉強になりました。議員の心構えや職務等に関しては私と考えが違う点も少しありましたので、一意見

として受け止めようと思いました。「住民から近くて遠い地方議会から近くて近い地方議会」になるためにはやはり情報発信が最も重要であり、その手段以上に中身が重要だと考えます。

【講義 3】 地方議会と自治体財政

① 目的

- ・ 地方自治体の財政についての基礎を学ぶこと及びその考察
- ・ 自治体財政に関しての議会のスタンス

② 内容・特色

- ・ 地方財政制度のポイント
- ・ 自治体の予算と決算

③ 主な質疑

- ・ 国債残高の推移について

④ 考察

自治体財政に関する様々な用語・意味そして現状などについて学びました。その中で特に気になった点で、基準財政需要額・基準財政収入額・普通交付税に関して、基準財政需要額（各標準的な水準で行政を行うのに必要な経費のうち、一般財源でまかなうべき額）に対して基準財政収入額（標準的な状態において徴収が見込まれる税収入を一定の割合によって算定された額）が不足する分に対して、補うものが普通交付税です。自治体間の最低限の行政サービスに格差がでないようにするために交付されるものです。日本にある自治体数は1741でその内77自治体のみが不交付団体です。ここで一つ疑問が生まれました。普通交付税が交付されている自治体においては独自の特色あるような事業に予算を割くという行為は標準的に必要とされる事業に割かれる予算を割いてしまうのではないかという点です。予算編成の濃淡に注目し、その費用対効果を判断していかなければならないと感じました。

【講義 4】 条例と政策の審査・立案

【演習 1】 条例演習（意見交換・発表・まとめ）

① 目的

- ・ 各種法令を見る際の視点を学ぶこと
- ・ 条例や政策の審査及び立案に関しての知見を得ること

② 内容・特色

- ・ 議会からの政策立案の必要性
- ・ 政策立案のためのスキルアップ
- ・ 条例の基本

③ 主な質疑

- ・ 実効性のある条例制定について
- ・ 立案する際の注意点

④ 考察

条例と政策の審査・立案についての講義を受け演習を行いました。条・項・節の順番 1 つとっても意味があること、目的規定は「手段」「目的」「究極の目的」の三段階で表現されることが多いということを知り、政策や条例を審議する際の重要な視点の 1 つだと感じました。また、条例制定のグループ演習では「手段」と「究極の目的」を考え、グループ毎に発表するというところを行いました。「究極の目的」部分が条例や政策のみならず、ありとあらゆる事業において意識すべきポイントになるのだと改めて感じました。

【講義 5】 これからの地方議員に期待されていること

① 目的

- ・ どのような議会が一般的に期待されているか知ること
- ・ 住民との関係性向上の手法などについて学ぶこと

② 内容・特色

- ・ 信頼される議会、議員になるための取り組み
- ・ 住民との良好な関係性の構築について
- ・ 多様性のある議会にするためには

③ 主な質疑

- ・ 主権者教育をどのようにして行うか
- ・ 制限連記制等の違う形の投票方式について

④ 考察

多様な議員の必要性や実現に向けての取り組みの一例、議員と住民の良好な関係性の構築に向けての取り組みの一例など、具体的で実際に行っている取り組みを知ることができました。一方で一般的・標準的な取り組みの域を出ず、達成目標の設定やその後のフィードバックなど、検証等を行っているようなものは少ないのではないかと感じました。

【横断的考察】

今回の議員研修では、「地方自治の基本」「財政」「条例・政策の審議・立案」「議員の多様性や信頼」という議員の持つべき基礎知識や視点などを学べたと思います。改めてより強く意識したこととして、行政側にしても議員側にしても、「何のため（誰のため）になぜその事業（取り組み・行動）を行うのか」「受益者と負担者のバランスとして適切なのか」という視点を常に持たなければならないと考えました。